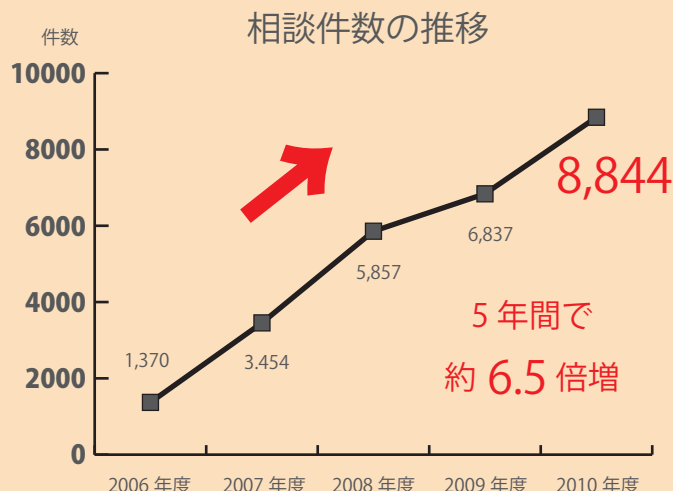


リレー・フォー・ライフの寄付金は、 このようにがん患者支援に役立てられています。



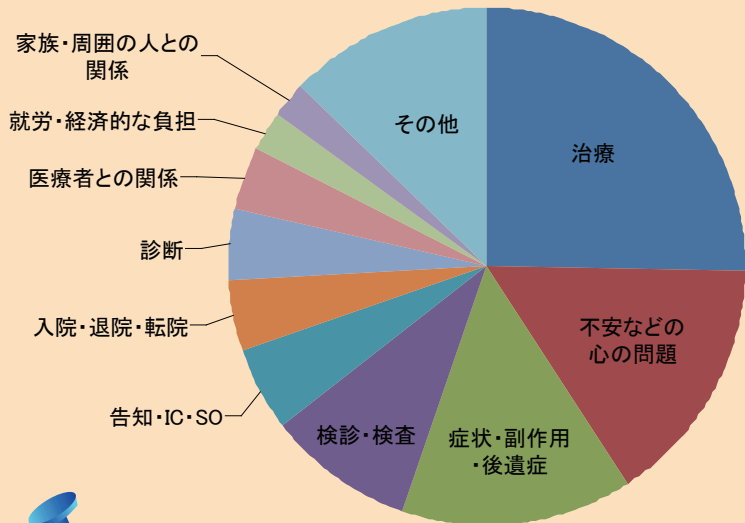
がん相談ホットライン

今後の生活のこと、治療や薬のこと、心のこと、その他がんに関するいろいろなこと、誰に相談したらいいのかわからない。この不安な気持ちを聞いてほしい。がん相談ホットラインは、そんながん患者やそのご家族からの不安や心配ごとに対して、相談員の看護師や社会福祉士が親身になってご相談を受けています。相談時間は、月曜～日曜の10:00～18:00（祝日、お盆、年末年始除く）。できるだけ、たくさんの皆さんの声をお伺いできる体制を整えています。



相談者の声

相談内容の内訳



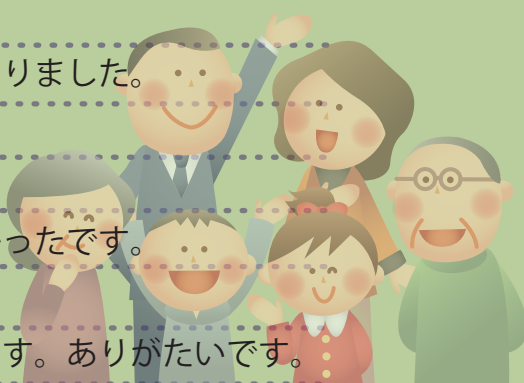
●2010年度に目立った相談内容

- ・子宮頸がん予防ワクチンについて
- ・治療法の選択について
- ・不安などの心の問題について
- ・乳がんについて
- ・最善の医療について

- 周囲の人に辛さをわかってもらえない。
- 担当医が忙しそうで質問しにくい。
- 東京の方がよい治療を受けられるのでしょうか？
- 不安などから「死にたい」と死をほのめかす発言
- 乳がんの長期間にわたる治療、再発の不安について
- 家族を疲れさせてしまうから話せない
- 複数の治療法を提示されて、どれを選んでもよいと言われたが、何を根拠に選べば良いの？
- 年齢が高いと子宮頸がんのワクチンは接種できないの？

相談者の感想

漠然と不安に感じていたが、何が不安なのか整理できたので良かったです。
 情報がなくて困っていたので、助かりました。
 話を聞いてもらえて力をもらえました。気持ちの整理もできて勇気づけられました。
 やるべきことが分かりました。
 誰にも話せない事をしっかり聞いてもらい、気持ちが楽になりました。
 来週、外来に行って検査してもらう決心がつきました。
 少し気持ちが落ち着きました。
 自分だけじゃなく、悩んでいる人がいることがわかって良かったです。
 どうすればケアが受けられるか、わかりました。
 ホットラインのようなところがあることで、患者も救われます。ありがとうございます。



ホットラインで働く 相談員の声



🌸 嬉しかったこと

- 患者さんが亡くなったあと、ご遺族より「ホットラインで話を聞いてもらえていたから耐えてこられた」とお礼の電話があったこと。
- 相談開始時に暗い声だった相談者が明るい声になったとき。
- 「これからやることが見えてきた」と言われたこと。
- 「担当医の発言の意図がわからない」と担当医との関係に悩まれていた方が、「担当医がなぜそのようなことを言ったかがわかった」と、担当医に対する信頼を取り戻せたとき。
- 「担当医との付き合い方が具体的にわかってよかった」と言われたこと。
- 繰り返しホットラインを利用される方がいるため、信頼されていると感じる。
- ホットラインに救われたから、沢山のの人に利用してほしい、ずっと存在してほしいとおっしゃって寄付をしてくださった方がいたこと。
- 「また明日からの治療を頑張れそうです」と前向きな気持ちになられたことを感じたとき。
- 「残りの時間に限りはあるけれど、生きていく意味があると思えた」とホットラインで生きる力を取り戻された方がいたこと。
- 利用してよかったという友人から紹介されたが、本当にいいところだった。

🗣️ RFLへのメッセージ

「ホットラインに支えられた」と多くの方から頂いた声。

皆さんの活動のもと寄せられた寄付で私たちホットラインは成り立っていることを考えると、その活動基盤を作ってくださっているRFL実行委員の皆さんにも繋がる言葉だと思います。

そして、私たちは皆さんに支えられているということ、寄付金は単なる「お金」ではなく、生きる希望や人の心をも救う温かみのあるものだということを強く感じています。

がん患者さんだけでなく、私たちをも支えて下さっているRFL実行委員の皆さん、どうか素晴らしいRFLを作して下さい。宜しくお願いします。

日々、沢山の相談を受けていますが、がんを克服して元気に生活している方、がんと共に生きながらその人らしく生きている方がいることを知らない方が多くいます。それを知ることが生きる勇気や力になることを肌で感じています。

RFLは参加できない方にとっても希望の灯となると思いますので、ぜひ頑張ってくださいと思います。

